

夜の間にひどい雨がふった。朝は晴れ、木の葉も地面も屋根もきれいに洗われていた。はちの死骸はもうそこにはなかった。(⑤) 巣のはちどもは元気に働いているが、死んだはちは雨樋(A)を伝って地面へ流れ出されたことであろう。足は縮めたまま、触角(B)は顔へこびりついたまま、(⑥) だろにまみれて、どこかでじっとしていることだろう。外界(C)にそれを動かす次の変化が起るまでは、死骸はそこに(⑦)しているだろう。それともありに引かれていくか。(⑧)、それはいかにも静かであった。せわしくせわしく働いてばかりいたはちが、全く動くことがなくなったのだから静かである。自分はその静かさに親しみを感じた。

- 問1 傍線部①の「拘泥」と②の「せわしい」の意味を書け。(6点)
 問2 傍線部③の「それ」の指示する内容を仮名六字で答えよ。(3点)
 問3 ④～⑧に入れる言葉をA～Dの中から一つ選び、記号で答えよ (5点)

- ④ Aやはり Bしかし Cそして Dところで
 ⑤ Aいまは Bいまも Cいまに Dいまから
 ⑥ Aたぶん Bそして Cだから Dどれも
 ⑦ Aどっと Bそっと Cじっと Dずっと
 ⑧ Aそれにしろ Bそれだから Cそれだから Dそれには

- 問4 この文章で作者はどんなことを書こうとしているのか、ア～エの中から適当と思われるものを一つ選び、記号で答えよ。(3点)

- ア 蜂の死骸が示している死の静かで寂しい様子。
 イ 蜂の死骸に対する他の蜂たちの冷淡で無関心な様子。
 ウ 生存競争の激しい蜂の世界の死の悲しみを示す蜂の死骸の様子。
 エ 蜂の死骸のそばをはいまわるだけで拘泥しようとしなない蜂の様子。

- 問5 この文章には作者のどのような気持ちが表現されていると考えられるか、ア～エの中から適当と思われるものを一つ選び、記号で答えよ。(3点)

- ア 死んだ蜂に対してあまりに冷淡な他の蜂への憤り。
 イ 蜂の世界の生存競争の厳しさに対する深き驚き。
 ウ 蜂の死骸が与える寂しさと穏やかさに、死というものの一面をかいま見た気持ち。
 エ 玄関の屋根の上で三日間もそのままほうり出されていた死んだ蜂に対する同情。

- 問6 この文章を読んだ感じとして適当だと思われるものをア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。(3点)

- ア ほほえましくて明るい感じ。
 イ 寂しいがとても静かな感じ。
 ウ たえがたいほど悲惨な感じ。
 エ さわやかですがすがしい感じ。

問7 次の括弧を埋めよ。(4点)

この作品の名は(a)で、作者は(b)で、(c)派を代表する作家であり、また(d)文壇を代表する一人である。

問8 傍線部A, B, Cの漢字に振り仮名をつけよ (3点)

四、次の下線部の解釈にもっとも適当だと思うものをA～Dの中から一つ選び、記号で答えよ。(10点)

1 平社員相手では談判もらちがあかない。

- A 失敗したこと
- B ゆきずまったこと
- C 原因がわからないこと
- D はかどらないこと

2 さも楽しそうな顔をしているが、内心は苦しいらしい。

- A いかにも
- B ほんとうに
- C そんなに
- D なんとなく

3 依怙地な客は、みんなから歓迎されないね。

- A つまらないことに頑固なこと。
- B 意気地のないこと。
- C 意志が弱いこと。
- D 意地が悪いこと。

4 これは内緒だから、ぜったいに口外しないでくれよ。

- A うちわで証明すること。
- B 特定の人に言うこと。
- C 表向きにせず、内々にすること。
- D ここだけで話しをすませること。

5 可哀想だから懇ろに弔ってあげましょう。

- A 丁寧に
- B 注意して
- C 親しい仲間で
- D お金をかけて

6 生きとし生けるものの住む環境をよくしよう。

- A 生きようとがんばっているものの。
- B 長生きしようとしているものの。
- C 生きるか死ぬか戦っているものの。
- D 生きている限りのすべてのものの。

7 いくらかの書物でわずかに渴を癒した。

- A 知識を得ること。
- B 望みがかなうこと。
- C 自分の心を満足させること。
- D 話題をさがすこと。

8 父の愛情は我が強すぎるのでやりきれない。

- A あまりにも強すぎる気持ち。
- B 自分中心に物事をしようとする気持ち。
- C 相手の気持ちばかり気にする。
- D あまりにも溺愛する気持ち。

9 幼児はいかにもおぼつかない歩き方をする。

- A 心もとない
- B しっかりした
- C へんな
- D 可愛らしい

10 厳しい父の横に座ると息がつまる。

- A 気ままにできないこと。
- B 呼吸がくるしくなること。
- C 話しができないこと。
- D 震えること。

五、次の（ ）に入れるのにもっとも適当だと思うものをA～Lの中から一選
び、記号で答えよ。（但し語尾は変えてもよい）（10点）

- 1、久しぶりに田舎に帰ったら、お祖母さんが、お腹は空いていないか、よく眠れるかと、それこそほんとうに親切に、（ ）の世話をしてくれた。
- 2、母の病気が気になって、先生の講義も（ ）で聞いていた。
- 3、彼は入賞した自分の作文を、部屋に閉じ込めてそれを読んで、独り（ ）
ている。

- 4、あの人は話しにすぐ（ ）。人がどぶに落ちただけで、川におちたことになり、その人が学者になったりするのだ。
- 5、百メートル競争は、見るものが（ ）ほど緊張して、ほんとうに息がつまりそうだ。
- 6、医者に（ ）ようでは、もうそう長くは持たないね。
- 7、能弁の彼の（ ）て、会社は倒産してしまった。
- 8、役所に行ってもう一度聞いてみたら、（ ）たような答が返ってきたよ。
- 9、王さんは発音もいいし、敬語を正しく使っているね。彼の日本語には（ ）たよ。
- 10、李さん、今日元気がないようだけど、彼（ ）だから、気にすることはないよね。

A 尾ひれをつける	B 寒心にたえない	C 判で押す	D 気がおけない
E 悦に入る	F 舌を巻く	G うわの空	H いたれりつくせり
I 口車にのる	G 匙をなげる	K お天気や	L 固唾を呑む

六、次の文章は、劇中の二人の人物の会話である。（1）と（12）を基準にして、全体の意味が通るように、後の順序を番号で答よ。（10点）

- (1) あけてごらん。
- (2) 外はお寒かったですでしょう、さぞ。さあ、火のそばへお寄りください。
- (3) ええ、まだです。これからです。
- (4) いらっしゃいまし。さあ、どうぞ。
- (5) ええ、ええ、どうぞ。
- (6) じゃあ、すぐに支度を。おい、おまえ……。
- (7) かまいませんか、入っても。
- (8) 時にお腹はいかがですか。まだ、お夕飯前じゃありませんか。
- (9) そうですか。ありがとう。
- (10) 今晚泊めていただけないでしょうか。
- (11) ええ、ありがとう。
- (12) いいえ、いいんです。食べるものはここにもっています。